

ひかりのこ

12月園便り
認定こども園
聖ミエル幼稚園
2021年11月19日

月主題：喜びいっぱい

「家族は一緒」

先日、ある学習会に参加しました。その中で、「家族の伝統行事」を考える箇所がありました。皆さんのお家に「家族の伝統行事」はありますか？「伝統」というと、おじいちゃんおばあちゃんから受け継いでいるもの、そのおじいちゃんおばあちゃんも先祖から受け継いできたもの、という感じになります。でも、そこまでさかのぼらなくても、子どもができてから毎年続けている行事、ありますか？

私はその学習会で「節分」と答えました。我が家の節分は、3部に分かれて盛大にやるのです。今でも、成人した子どもたち、孫も参加してくれます。そして、「キャンプ」と答えました。もう今は夫と二人きりなので行かなくなってしまいましたが、昔は3人の子どもと私たちで、ワゴン車に2週間分の着替えを詰め込んで、全国を旅したものです。家を離れ、狭い車が我が家となり、遠くの見知らぬ土地で寝泊まりする不安と期待。お宿は道の駅。ワゴン車の後ろのシートをフラットにし、子どもたちはゴロゴロとすごい寝相で寝ています。子どもたちの寝顔を見ながら、「ああ、もし家が無くなってしまっても、家族さえ一緒にいられば何もいらない。」と感じたものです。

12月には、クリスマス、1月にはお正月が控えています。どうぞ子どもたちを囲むご家族やご親戚がみんな心を通わす良い時となりますように。家族で過ごす時間が、子どもたちの宝物となって、次の世代に引き継がれていくのです。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「十字架を見つめながら」

教会の信者さんで89歳の男性が亡くなり、お葬式をしました。長い間、日曜日の礼拝ではご夫妻は並んで座っておられました。これからは奥様が独りで座ることになると思うと、少し淋しい気持ちになります。よく言われることですが、夫婦は仲がいいからといって、互いを見つめ合っているのはつまらない、見つめ合うのではなく同じ方向を見るものだ。このご夫妻の場合は、長い間並んで座って礼拝堂の同じ十字架を見ていたのです。教会に来る度に、この世に生まれてきた不思議、これまで生かされ、伴侶が与えられ、子ども、孫が与えられたことへの感謝の想いを、十字架を見ながらしみじみと感じておられたことでしょう。

葬儀の少し前、二人の赤ちゃんが産まれました。不思議なのは、二人のお母さんは中学の同級生、さらに二人とも看護師で、一人は里帰り出産でしたが、同じ産科の、同じフロアにいたことを知らなかったのです。一日違いで出産した後、お互いに気づき、喜び合ったといいます。二人の赤ちゃんには無限の可能性が 있습니다。たくさんものを見て、経験して大きくなります。やがて十字架も目にすることでしょう。イエス様との初対面です。なにがあっても大丈夫と約束してくれるイエス様。この先何十年も、十字架が共にあります。天に戻っていった人にも、新たに産まれた人にも、十字架を通して神様の祝福は満ち満ちているのです。

チャプレン 司祭 下澤 昌

